

防府市産業戦略本部 第1回会合 議事録等

■開催日時・場所

平成30年11月6日（火）午後6時30分から午後8時30分まで
防府市役所4号館3階第1会議室

■次第

1. 開 会
2. 議 事
 - (1) 防府市産業戦略本部の設置について
 - (2) 防府市の産業を活性化する提案等について
3. その他
4. 閉 会

■配布資料

	資料名	番号
1.	防府市産業戦略本部設置要綱	【資料1】
2.	防府市産業戦略本部委員名簿	【資料2】
3.	国要望への添付図面	【資料3】

■出席者名簿

敬称略・順不同

種別	所属団体・役職	名前	出欠	
本部長	防府市長	池田 豊	出席	
本部委員	大企業	マツダ株式会社 防府工場 総務部長	黒瀬 智彦	出席
		株式会社ブリヂストン 防府工場 総務課長	後藤 淳	欠席
		協和発酵バイオ株式会社 山口事業所防府 総務課長	岡崎 正敏	欠席
		東海カーボン株式会社 防府工場 研究所長 工場長	灰野 和義	欠席
		株式会社丸久 代表取締役 副社長	清水 実	出席
	中小企業	王子ゴム化成株式会社 執行役員 管理部長	末松 元成	出席
		東山口信用金庫 本店 本店長	守田 誠	出席
		有限会社周防タクシー 総務部長	新原 耕由	出席
		アボンコーポレーション株式会社 代表取締役	松村 憲吾	出席
		光浦醸造工業株式会社 代表取締役	光浦 健太郎	出席
		原田株式会社 代表取締役	原田 栄造	出席
		フラワースペース Co-co 代表	森本 幸代	出席
	関係団体	防府商工会議所 会頭	喜多村 誠	出席
		天神銀座商店街振興組合 理事長	坂本 恵次	欠席
事務局	本部	総合政策部 部長	熊野 博之	
		産業振興部 部長	赤松 英明	
		土木都市建設部 部長	友廣 和幸	
	庶務	総合政策部 部次長	能野 英人	
		総合政策部 部次長兼 総合政策課 課長	亀井 幸一	
		総合政策部総合政策課地域創生総合戦略室 室長	齊藤 忍	
		総合政策部総合政策課企画係 係長	末富 真一郎	
		総合政策部総合政策課企画係 主任	山本 幸志郎	
		総合政策部総合政策課企画係 主任主事	渋谷 壮平	

■会議録

1. 開 会

市長挨拶

2. 本部委員紹介

(事務局から各本部委員の紹介)

3. 防府市産業戦略本部設置について及び国への要望事項の説明

(事務局から資料 1、資料 3 を一括説明)

5. 各本部委員による意見

A 委員

一番の問題は人手不足、労働力不足ということではないかと思われる。今日も国会で外国人就労問題について議論されている。とにかく人手がないので、事業をしていく上で大きな障害になっている。

次に、企業が成長していくうえで、いろいろな規制が成長を阻害する要因になっており、規制とか制度というものが非常に大きなネックになってきていると思う。

もう一つは消費税増税への対応の問題。軽減税率の負担だとか、様々な問題が出てきている。あわせて、消費税が上がる中で価格へ転嫁していけるのだろうかということもあり、それにより大企業と中小・小規模事業者の格差が拡大していくのではないかという懸念もある。

あとは、中心市街地活性化の問題。そして、産業界にとって効率のいい、無駄のない活動をするうえで、たとえば渋滞の問題やCO2削減の問題など、様々なことがあるので、そういう産業インフラについての整備をお願いしたい。

B 委員

やはり人手不足というところで、人材を確保するところが問題。また、私たちの業界の社会的地位を向上していかなければならないと考えており企業努力をしているところ。そんな中、将来的には、交通弱者に対する移動サービスの提供と、観光タクシーの新規事業を立ち上げたいということを考えている。

町の中心から離れたお年寄りの方々の移動手段がないという中で、今後行政のほうで支援を検討されていくと思うが、何か具体的な施策があればお教えいただきたい。

C 委員

今は市内でも同業者は数社しかない。私はこういう衰退傾向にある産業を、どうにか復活させていきたいと考えている。また、扱っている素材があまり認識されていないので、防府から全国に発信したいという思いである。国にも伝えていきたいが、一企業がやってもなかなか難しいので、行政の中で素材を認めてもらって世の中に普及していったら、ひいては自分のところの産業がまた復活していくのではないかと考えている。

D 委員

私としては、市に要求することはあまりないというか、結局は私たち民間の企業が頑張るしかないと思っている。私の会社を零細企業から企業へ脱皮させたい。

現実的に少し問題としてあったのが、会社のあるエリアを魅力的な地域にしたいということをや前々からすごく考えていて、事業を拡大するのであれば近いところでやっていきたいと思っていたが、都市計画の問題に直面したので、そういう部分で緩和があれば会社のあるエリアをよりよくしていきたいと思っている。

もう一つは、資本主義の原点である、人と違うことをしてその差異で儲けていくというやり方をやっていけるような土壌づくりというか、ちょっと変なことをした会社を温かく見守っていけるような市の土壌があれば面白いと思う。

E 委員

行政に求めることは特にはないが、まず我々中小企業がしっかり、それぞれが自立して、頑張っていくことだと思っている。

防府市に関して思うのが、若い人に伝えるときに非常に伝えにくいところがあり、でもやはり若い人にも興味をもってもらえることを、常にまちづくりとしてやっていかなければいけないのではないかと。文化遺産や歴史、伝統などももちろん大事だが、今の小学校、中学校の子どもたちにとってどうなのか、また、子どもたちがいずれ防府市を離れてしまって、戻ってきてくれるのかと思う。そういった中で、防府市として、人が呼べるコンテンツであるとか、外部からこういった会社、ブランドを誘致しようとか、そういった戦略といったものを考えておられるのか知りたい。

F 委員

まず、保育園の関係、待機児童の問題で、もちろん待機児童で保育園に入れられないということもよく聞かすが、それよりも、二人目以降に生まれた子どもが同じ保育園に通わずバラバラという、なんとも非効率な保育園の預け方をしているということも聞く。しかし、とにかく預けないことには働くこともできないとのことで、人材不足とは言われるが、人材不足というよりも、今いる人たちをどうやって快適に働かせてあげるかというのも今の問題ではないかと思う。

あと、防府市の魅力がまだ他県には伝えきれていないと思う。以前近くのお店の幟旗に「メイドイン防府」と書いてあったのを見たときに、こういう宣伝の仕方は素晴らしいと思ったのを覚えており、やはり防府市の魅力がまだまだ他県に伝わっていないのではないかと感じた。

G 委員

本日取り上げていただいた国への要望については、大変ありがたい。

こうした陳情ばかりではなく、従業員の中に、固有の技能として非常に高い技能を持っている者が数多くいるので、そうした人的な資源によって、何か今後地元、地域で貢献できないかと考えている。特に社内の教育で、あまり多くの人材とかお金がかけられないといった中小企業の方に、何らかの形で、こうした人的な資源を提供できるようになれば、助けにもなるのではないかと考えている。

H 委員

当社では、他市工場ではあるが、水耕栽培による新商品の開発を行っている。PR不足で全然売れていないが、他の方もこだわりの商品を開発されても、PRや広告宣伝、販売の場所などお困りのことがあると思うので、そういうところでぜひ協力させていただきたいと考えている。

さきほどの説明の中で、バイパスにつながる防府環状線の早期整備があげられていた

が、なるべくこの道路を早く開設させていただきたいということを要望したい。それから、市ではいろいろな行政サービスの取り組みをされておられるが、やっぱり市民へのPR不足、認知不足という部分があると思う。我々も買い物弱者に対する、社会貢献というか、そういう取り組みも今後も進めたいと考えているので、行政側として何らかの補助金、補助制度とか、支援をいただければ助かる。

I 委員

うちの工場の裏に、元から未整備の区間の道路の計画があるが、ずっと経っている。運搬関係において危ない部分もあるので、道路ができればそこから運搬・流通をよくするという事をお願いしていたと思う。

あと、困っていることは、人材不足がある。どこも一緒だと思うが、私らは中小企業のため、なかなかいい人材が入ってこない。やはり売り手市場ということで、地元の高校生とか入っていただきたいが、なかなか入ってくれないという現実がある。

いま海外の人を研修生制度で雇っているが、人手不足の一つの対策としては、それも重要ではないかというところで、これからも続けていかななくてはと思っている。

J 委員

いま、中小企業への支援が非常にクローズアップされている。先日、あるテレビ番組で、高いコンサル能力をもつ人材雇用にて、ビジネス支援センターを立ち上げ、中小企業の支援を推進するという特集があった。また、2月に開催の中小企業振興会議でも、このことが新たな相談機能の事例として説明されていた。さらに、市議会においても、相談機能については注目されていると聞いている。既存の相談機能について、相談機能の位置づけと連携が非常に重要と考えているので、番組の中で紹介された、富士市産業支援センター・小出氏とお会いする機会があれば、ぜひとも防府市の具体的な産業支援についての施策・方向性についてお話させていただきたいと思っている。

本部長

今10人の委員からご意見をいただいたが、本当に貴重な意見だと思う。県でも商工労働部とかいたが、立場が変わって、これまでとは違う立場で聞かせていただいた。

まず、A委員から、人手不足ということで、国のほうでも外国人労働者の話をやっているところ。今日ちょうど商工振興課等と外国人労働者について、これからはそういうところでうまく防府の売りにできないかと話した。それから規制の問題。それもやっていけないといけない。また、まちづくりの話。まちづくりについても、新庁舎を現在地ということで決めさせていただいたので、これからどうしていくのか、非常に重要な課題だと思っている。

それからB委員から、交通弱者対策ということで、周辺部の方をどうするのかということについて、これも選挙のときに訴えさせていただいたが、それこそ規制の壁というのがあるのでなかなか難しいところがあるが、モデル事業を組立てながらやって行きたいと思うし、交通事業者ともしっかりと話したい。一気にできるというものでもないのので、いま総合政策部のほうで、どういう形でモデル事業をやっていくのかということを考えているので、慎重にやっていきたいと思う。

それからC委員から自社で扱う素材の話があったが、県庁時代から大変よく知っているところ。防府発ということをよくPRしてということで、これは大変いいことなので、

市だけでなく県ともいろいろ連携しながら、しっかりとPRなりしていきたいと思う。

それからD委員から、都市計画による壁について伺ったが、今どうこうできないものの、そういった観点をしっかり聞かせていただいて、市内でできるだけ展開していただきたいと思う。その中で、企業として、「零細企業から企業へ」というお言葉があって、これはなんかキャッチコピーになると思ったところである。「家業から零細企業へ、そして企業へ」というところ。

それからE委員からも、人材不足の話があった。それからまちづくりをどうしていくのかということで、中核都市の話もあったが、それについては商工会議所の会頭もいらっしやるし、JCの理事長もいらっしやるので、そういう方の意見をしっかりと聞きながら取り組んでいきたいと思っている。これまでなかなかうまくいかなかったので、今度はしっかりと腰を落ち着けて、しかしながらスピード感を持って取り組みたい。

それからF委員からは、待機児童の話があった。来年は幼児教育の無償化ということで、保育ニーズはかなり高まると思われるので、全国的になると思うが、待機児童は増えるのではないかという不安がある。そうした中で、二人目三人目ということで、これはまさに制度の壁と思うが、しっかりと実態を踏まえて、要望なりしていきたいと思う。また、防府は知名度がないとあったが、実は先週要望に行って、「防府市」の読み方を聞かれることがあったので、私自身もそれを感じたところである。

それからG委員から、国道2号、また県道の話があったが、これについてはしっかりと要望させていただく。

それからH委員からは、他市工場で行なう水耕栽培の話があった。今いろんな企業がやっているが、私も県の時代から非常に注目して見ているところ。これがどのようになるかということだが、県の農業試験場を防府に誘致しようということで一生懸命取り組んでいるので、そのときはできたら、防府でも展開していただければということをお願いしたい。

それからI委員から、道路の問題の話があった。状況をしっかりと聞いてどのようにできるのか、市内の実態も見ながら、当然できることできないことあるが、しっかりとしていきたいと思っている。また、人材不足の件。これについては、高校生がなかなか県内に定着しないということが大きな課題。県と経済界の方にも一緒になって取り組んでいただいて、やっていきたいと思う。

それからJ委員から、私も先般見させていただいたが、某テレビ番組を見ての話だったと思う。中小企業の相談機能というのは、県ではよろず相談があるが、見守っていきたい。そうした中で、中小企業の経営指導というのは大きな課題となっていると思うので、しっかりとこれからも検討させていただきたい。

以上、委員の皆様に対する最初の回答だが、いま中小企業の経営指導という話があった。いろんなやり方があるので何が特効薬かということは、私も本行政マンなのでわからないが、何か意見があればお願い致したい。

A委員

中小企業の支援の件。がんばる企業を応援するという事なので、しっかりと応援していかなければいけないと思う。地域にその企業の認知度を高めるとか、そういう努力もしてきているので、引き続きそういうこともやっていきたいと思う。

いま市長が話されたように、商工会議所にも中小企業相談所という非常に重要な仕事がある。金融の相談から、税務の相談、あるいは事業承継など、昨今一番これは難しい問題になっているが、いろいろな金融機関の協力も得ながら、県のよろず相談所もひっくるめながら、様々な相談に乗っている。防府の商工会議所は県内でもトップクラスの、かなり成果をあげていると思っている。会議所のもつ機能としてこれはさらに充実させていかなければいけないと思っており、さきほど話があったが、県外にも営業的な展開をしていくとか、ブランディングだとか、地域だけではなかなか解決できないような、専門知識が必要というところも今後は対応していかなければいけないと思っているので、そういった意味では、プロフェッショナル人材とか、エフビズだとかいろいろ言われているようだが、そういった人たちとの連携も引き受けながら、やっていかなければいけないかと思う。会議所だけでなく、県とともにというだけでなく、外部の専門人材の検討はしていかなければいけないと思うが、一体化して行う必要はあるだろうと思うので、バラバラにやるよりは、会議所や金融機関とか、あるいは専門人材、こういった人たちがチームを組んで、ワンストップで企業の疑問に答えるような仕組みづくりということは、これから検討していかなければいけない課題だと思っている。いずれにしても、がんばる企業をどうやって応援するかというところで、アドバイスの問題もあるし、補助金だとか助成金だとかあるので、官民一体となって、がんばる企業は応援をしていきたいと考えている。

あと余談になるが、少し話を聞いて私も思ったのは、防府の発信力を高めるといことだろうと思う。我々が思っているほどに防府の認知度は残念ながら高くない。私も防府に来るまでは防府のことを知らなかった。だからやはり認知度を高めていく、そして発信力をつくっていく。それからストーリー性なども高めながら、地域を元気にしていく。あとはやはり市民が誇りに思うシビックプライドというか、こういうものを一体にして発信力を高めるとか、一緒になって、地域をよくしていくだろうと思う。

本部長

今創業のことが話題に出たが、F委員、こちらに来られてからのお話があれば、お願いしたい。

F委員

うちで取り組んでいることを紹介したい。まず一つが、一日子ども店長、対象は小学4年生から6年生とかなり限定しているが、花屋にちょっと興味のある児童、一日2名限定で不定期開催だが、花屋で働いてもらうという体験を実施している。アレンジメント教室とかではなく、掃除からはじまり、花や水の管理など、本当に花屋の仕事をしていただくということを、無償ではあるがやらせていただいている。東京とかではキッズニアなどあるが、小学生に職業体験をさせてあげるといのは、とても大事なことかなと常々思っている。小さい頃から選択肢を与えてあげるとか、地元にはこんな会社があるとか、C委員の会社のような、鑄造などなかなか理解が難しい企業もあるとは思いますが、意外に子どもというのは昔から思ったことが職業につながったりする。そういう体験とかを、防府市で何かのイベントでいろいろお店を集めていただいて、体験させてあげるというのもひとつ大事なことじゃないかと思う。社会科見学も大事ではあるが、見るよりもやはり触ったり、体験したりということはとても大事なことなのではないかと思う。

あともう一つ、うちも防府ブランドをひとつ持っており、「幸せます」のブランドで、「幸せます注連縄」というのを作らせていただいている。注連縄はうちがすべてオリジナルで作った後に、近くに春日神社さんがあるのでそちらに祈祷していただいたものを販売するという形を取らせていただいている。ブランド戦略ということもあるが、そういった幸せというイメージから防府市を見るというのも大事なのではないかと思うので、それをうまく活用できればと思う。今「幸せます」のブランドが何かみなさんバラバラにされているようなイメージがあるので、もっと何か統一して売り込むという感じをもっていけたらと思う。

本部長

いま鑄造の話が出たが、C委員何かあれば。

C委員

まちづくりの観点から。私どもは、富海のまちづくりにも参画させていただいている。そのこともあるが、私どもは鑄造というところをもっと掘り下げていきたいと思っている。防府商工高校と新しい商品を開発して、今ちょうどソラールで展示しているが、そういった発信もしながら、あと3年で創業200年になるので、私どもいま3年目標で、防府に鑄物博物館を作りたいと思っている。それには、先ほどから、災害復旧でも役に立っている「鑄田籠」という話をしているが、それを発信することによって、防府の地名を知っていただきたいというところがある。

ただなかなかハードルが高いところがあり、なかなか一企業、一団体では難しいところがある。私たちは自分たちの製品だけとは思っておらず、素材を社会基盤に広めていくことによって、持続可能な社会システムを作るために、この素材をぜひ防府から広めていきたい。それがひいては防府のまちづくりにもつながっていくのではないかと思っている。そのように広めていくことによって、防府の知名度を上げるというか、そんな役割ができたらと思っている。

本部長

今年は災害が全国的に多かったので、国のほうも災害対策にすごく力を入れていくと思われる。何よりも、今日も協議の中で話したが、来年は防府の災害が起きてちょうど10年となる。そこにおいてやってきたことを発表できたらと思うし、我々にできることはきちんとしていきたいと思う。

他に何かあればいただきたい。D委員何か。

D委員

私たちの会社は、先ほど申したように商品は9割以上が県外で販売しているということで、県外でどのようにしたら売れるかということを日々よく考えている。零細企業ではあるがブランディングということをもものすごく意識して、安売りしないなどのことを意識的にやっている。

ブランディングのことを考えたときに、さきほどF委員がおっしゃられた「幸せます」ブランドについて、このブランドのシールを貼れば売れるものであると言われると、なかなか難しいかなとは正直思う。それはデザイン的なものもそうであるし、その広め方等も、何が悪いと言えませんが、感覚的に、これを貼ったらうちの商品がよく売れるだろうというような気持ちはなかなか芽生えないだろうと。これは防府市だけ

ではなくて、どこの市もすごく難しい問題と思う。成功しているところで言えば、他県のキャラクターでものすごく成功したと思うものがあり、そのブランドの製作ストーリーを見て、ブランディングに対してはものすごく消費的かつ市場をよく考えたことをされているということを勉強した記憶がある。なので、一度できてしまったものをどうしたらいいのかというのはすごくまた難しい問題ではあるが、私の会社の方針としては、間違ったというときは、もう思い切って戻して、やり直すというようなこともしているし、その当時よかったことが今に合っているのかということを考えて、市場はすごく動きが早いので、そういう部分での思い切った改革のようなものもいろいろ必要なのではないかと思う。

それと、防府市の魅力というか、どうしたら防府市をいろんなところで見てもらえるかということ。市をある程度盛り上げていこうとすると、最先端の技術とか、全国的に注目されるようなことをしないとやはり難しいというのは当然のこと、私がいまちょっと目をつけているのはシェアリングエコノミー。ライドシェアであったり民泊であったり。シェアリングエコノミーの問題点は、本人確認が難しいということ。まったく知らない人を乗せていくのはすごく怖い。しかし、田舎のいいところは、横のつながりがものすごくあり、本人確認がしやすいというのがメリットかなと思う。どこかの商店のおばちゃんの紹介ですと言っただけで、ああ、あその、という。東京とかではまったくありえないようなことがある程度田舎ではできる。そういうメリットを活かして、ライドシェアなどシェアリングエコノミーを推進する市というような形で進んでいければ、何かしらおもしろいのではないかと考えたことがある。

本部長 | うまく使えれば、さきほどB委員の交通弱者の回答にもなるかもしれない。今日いただいた意見はしっかり受け止めていきたいと思うが、B委員何かご意見あるか。

B委員 | 簡単に、今後のことについて、というところで話させていただきたい。
さきほど、これから力を入れていきたいということであげた、交通弱者の方々の支援と、観光タクシー事業について。タクシーをよく使われているのはお年寄りであり、このお年寄りの方々の移動範囲を拡大させること、そして移動頻度を高めていくこと、これがやはりこのまちの活性化につながっていくというところで、私もそちらのほうに力を入れて、貢献していきたいと思っている。また、私が考えている観光事業は、観光プレーヤーを育てるという視点で考えている。やはり防府のまちを紹介する人がいなければPRすることができないので、観光タクシーも、この防府というまちを紹介できる運転手でないと務まらないと思うので、そういうところからはじめて、ひいてはいろんなところに観光プレーヤーを育成する何かを作れたらと思っている。

本部長 | いまちょっと観光の話題が出たが、J委員何かご意見は。それと、さきほど中小企業の支援ということがあったが、それについても意見があればお願いしたい。

J委員 | さきほど申し上げたように、「連携」という言葉が非常に重要視されているので、単体で何をやってもなかなかうまくいかないと思うので、様々に連携をとって、いろいろな

ことを進めていくのが一番ではないかと思う。また新たな取組として、エフビズのようなものも非常に興味は抱いているので、ぜひとも一度、参考になることがあるかどうか分からないが、まず話を聞いてみたいと思っている。

それと、全然違うことになるが、行政の方もいろいろな引き出しをもたれていると思うが、それが非常に市民の方に伝わっていないと思うので、その辺のことが上手に伝わるようなシステムをもう一步踏み込んでいただければおもしろいのではないかと思う。

本部長

I 委員にお願いしたい。他市になるがテクノパークのほうに行かれた原因というか、何か向こうを選ばれた理由について、もしあれば一言お願いしたい。

I 委員

なかなか答えにくいところがあるが、土地が安いとか、空港に近いし、直接新幹線からも行けるということで、その辺の交通の面もあって、来客等があれば行きやすいというところはあると思う。

本部長

H 委員、何か一言お願いしたい。

H 委員

弊社の本店所在地は防府市に構えているが、博多の天神に構えてはどうかという意見があった。ただ、トップが、創業の地である防府を本店所在地にして上場企業としてやろうということでその形でやっているところ。で、新センター、今稼働している工場は築地にあるが、雇用確保の観点から、テクノタウンだとか交通のアクセスに良いところとかいろんな案件が挙がった中で、やはり現在働いている従業員の方の移動距離も踏まえて、より近い江泊の地に決定した経緯がある。

さきほどから人手不足の問題があがっているが、我々がかつて雇用の受け皿と言われていたが、今まさに人手不足ということで、パートさんの時給も毎年のように改定されて、人件費も圧迫している。弊社の取り組みとしては、まず女性活躍推進。今日も委員に女性の方がいらっしゃるが、弊社では10人の幹部等に登用している。これからも、女性の視点、女性の感性を活かした店の運営をしていただきたいという思いで、これからどんどん増やしていきたいと考えている。それから、当然のように、雇用の延長ということで、いま国のほうでは70歳までというところでも、高齢者の方も元気に働いていただく環境づくりに努めている。いま外国人技能実習制度の活用ということで、これまでミャンマー、中国、現在ベトナムと、各国の国民性、経済格差いろいろあって、ベトナムの方が親日的であり、大変勤勉な国民性であると感じている。いま合わせて90名活躍していただいているが、来年もさらに30名追加というところ。

本来的な外国人の受入というのは国として対応していくと思うが、企業として、人手不足でその対応をきちんと取っていききたい。あとやはり生産性向上というところの中で、決済システムでキャッシュレスの動きとか、生産性改善に向けて取り組んでいる。

本部長

しっかりと展開していただくようお願いしたい。E 委員、急成長されているが、一言お願いしたい。

E委員

いまリクルートのほうでは、やはり東京は非常に人の動きが多くて、募集が非常に多い。山口で同じように人材紹介をお願いしたらなかなか少ないというのが現状で、それだけ人が動いていないのかとを感じる。と同時に、山口で働くとか、防府で働くというそのイメージが難しいのかもしれない。我々も県外の人をどんどん採用していきたいと思っているが、そこでやはり会社としての魅力をどう作っていくかというのはこれからすごく大きなテーマと思う。これは福利厚生、お給料もそうだが、やはりうちで働くことに対してどれだけ魅力を感じてもらえるか、今からしっかりと考えていきたいと思っている。また、やはり会社を発展させていくためには人というのがすごく大きい問題なので、できれば県外の人を採用した際に助成金があるとすごくうれしい。また、会社の雇用に対して、県であればいろいろそういう機関がやっているが、市としても何かそういった就職関係のサポートがあったらしてもらえると心強いと思う。

本部長

東京にお店を出されたというか、展開されたことはやはりリクルート上かなり有利になったのか。

E委員

それはあるが、東京の人に山口で働いてみないかと言ったら、とても驚かれて、難しそう感じた。一度遊びに来なよというふうには誘っているが、今から東京の人たちも山口で働けるような何か土壌ができたと思う。東京とはいえ田舎から出てきている人たちも多いので決して田舎が嫌いというわけではないと思うが、東京にはメリットが非常にあるので、山口のメリットをどう打ち出していけるかというのはこれから考えていきたいと思う。

本部長

行政も一緒に考えたいと思う。G委員がいらっしゃるが、市と言わずに、行政・国に対して何かあれば一言お願いしたい。

G委員

さきほどから人の確保というところでたくさんのご意見が出ている。当社も従業員の確保という点では大変苦慮しており、今はもう県内で充足できる状況ではないということで、いろいろ採用活動しているという状況。ただ、やはり企業としてしっかりと魅力がないとなかなか来ていただけないだろうと。やはり工場がサステナブル、持続性のある工場となるからには、しっかりと魅力のある工場であるべきだということで、もちろんそれは給料だけではないだろうと思う。いろんな形で、やはり働き方改革というのにも必要になるし、本当の意味で地域に貢献して、地域に根付いている企業であるという必要があるだろうと。そうした中で、やはり我々はどうしなければならないかというのを、いま社内でもいろいろ議論しているところである。単に地域貢献といえ、いろんなイベントに出るといってはもちろんやっているが、やはりその点だけではなく、人的に何かもう少し活躍できるような状況にならないかというので、さきほど、人的な貢献をやっていけるようになりたいというふうに提案した次第。ただなかなか、当社でこういう人材がいるからというので、他社さんの教育のほうでお役立てできないかというのを積極的に出してということも難しい面があるので、そうした中で、行政のほうからそうした橋渡しというか、そうした活躍できるような場とか機会というのを少し

ご支援いただけたらと思っている。

本部長

いま、人材提供の話もあったが、そういう仕組みが行政として、一緒になってできないかというのは考えていきたいと思う。他何か意見があればお願いしたい。

A委員

G委員の話聞いていて思ったが、自動車産業っていうのは非常に裾野の広い産業で、防府地域の産業の発展に大きく今まで寄与されてきた産業なので、どう言ったらいいか、総合力で、防府地域を豊かにすることなので、しっかりがんばっていかねばいけないという思いと、自動車産業界に、地場経済に対しての支援といいますか、そういったことをお願いしたいと思ったのと、人手の問題。技量や経験をもった人材、それぞれ60歳の定年、あるいは雇用延長で65歳ということがありますが、様々な技量をもった人を広く地域で活用する話は、行政の方々にもお願いをすることになるだろうが、そういう人材がほしいというニーズもあるだろうし、働きたいという人も、企業も、そのマッチングができれば、地域でいろんなことがもっとできるのではないかという気がして聞かせていただいた。

本部長

委員の皆様、長時間にわたり、夜遅くまで感謝申し上げます。初めての会合だったが、始まる前より今は頭の中がすっきりしたというか、今日開いてよかったなと思っている。皆様の話をヒントに、こういうことができるのではないかと施策を頭の中で浮かべていた。できない部分も多いと思うが、今後どうしたらいいかと考えたところである。

今日お聞きした意見などについては、国へ要望することは国へ、県へ要望することは県へ、そして市でできるものは市でということで、それからまた皆様と一緒にやってやるべきこと、できるものは一緒にやってやらなければいけないと思っている。

また、今日の皆様、せっかく一緒に顔を合わせられたので、企業間の連携もあると思うし、それも産業戦略本部を作った意味だと思うので、ぜひともお願いしたい。

改めて、本日は様々な意見を聞かせていただき感謝申し上げます。これから、今日をヒントに考えたことについて、個別の企業様に再度お話を伺いに行ったり、ご相談したりさせていただくこともあると思うが、そのときにはまたお時間を頂戴したい。

次回の会合については、年に3回とか4回かと思っているが、ある程度の段階でまた皆様の意見を伺えるよう、フレキシブルな会合にしたいと私は考えている。また自由に意見を言っていただいて、それで前に進んでいけるという形にしたいと思う。最初に申し上げたように、要望についてはこんな感じであるとか、一枚概要でこのような感じであるとお示ししたい。

とにかく丁寧に考えなければいけないが、スピード感をもってやりたいということが私のモットーなので、どうか皆様、引き続きよろしくお願い申し上げます。

閉会